

イシガレイ稚魚の接岸

■早いイシガレイ稚魚の接岸

今回の調査で、イシガレイ稚魚の接岸を確認した。寒風が吹く日であったが、河口域 (Fig.1,2) で稚魚を採集することが出来た。2月に採集したのはこれまでの調査で初めてである。Fig.1の○で囲んだ部分には水中に障害物があり (Fig.2) この付近で採集することが出来た。稚魚の大きさと数はTable.1に示したとおりである。

1.5cmの1個体 (Fig.3) はほぼ透明で消化管が透けて見える状態であったが、他の個体は色素が発達した個体であった (Fig.4,5)。昨年までの調査では、3月に稚魚の接岸を確認し、その際の個体にはFig.3のような透き通った個体が多く見られた (レポートNo.109参照)。これまでの調査で最も早い2月の時点で色素が発達した個体が見られたということは、これまで調査した年よりも成長が早いと考えることが出来るであろう。今後、早く成長して外海へも早い時期に移動するのか、より大きな個体に成長してから外海へと移動するのか、注視していきたい。

なお、潟湖内でも採集を試みたが、採集することは出来なかった。



(Fig.1 河口域の採集地)



(Fig.2 採集地)



(Fig.3 透明な稚魚)



(Fig.4 色素の発達したイシガレイ)



(Fig.5 色素の発達したイシガレイ)

稚魚の全長	1.5cm	2.0cm	2.5cm
採集数	1	6	5

(Table.1 採集した稚魚の全長と数)